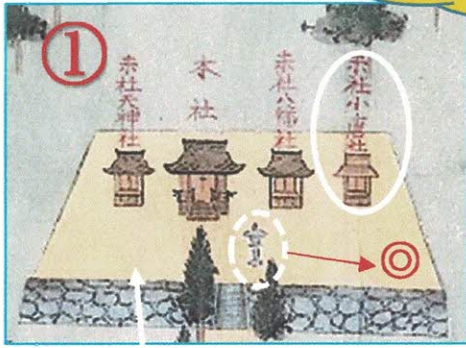


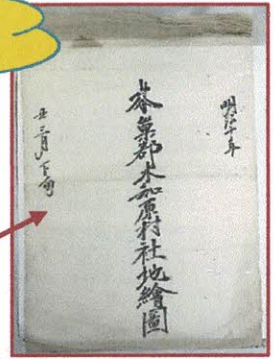
木知原の今昔!

11号: 5・4・14



明治時代の資料発見

本県郡木知原村社地絵図
明治拾年三月下旬

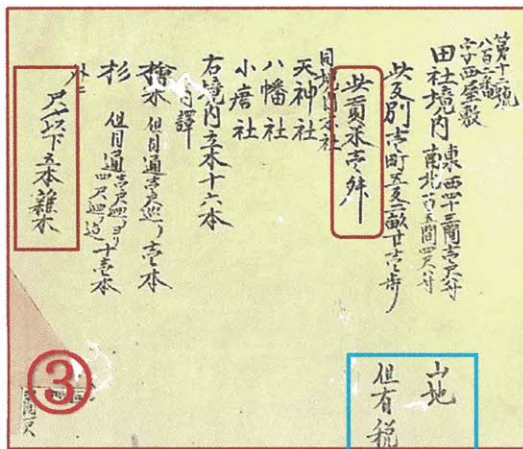


この絵図集も近年発見されたものである。内容が多岐に渡っているので一部を抜粋し紹介することとした。



美濃國本県郡木知原村地座
田社神社境内繪圖

- ①図は、②図の社殿部分の拡大であるが、**おや!** と思ったのは「小唐社」が上位に並んでいることである。江戸時代や現在は下位であるが明治のこの時期だけ?他の頁の絵図も同位置である。
- 明治元年の「神仏分離令」による神道国教化政策で全国の神社が様変わりしているの、木知原も伊勢神宮を祀る「小唐社」が上位に移されたものと思われるが…。
- 灯籠が中央一基・拝殿や御鋤社はまだ無い。
- 絵図帳の作成者は不明



- ②図は絵図帳の中表紙で境内の全体図がカラーでご神木や椎木も画かれている。また**階段が完成している**のが新発見である。(根尾道は下へ)
- ここでも**おや?** と思ったことは表紙には「木知原」この絵図には「木智原」とあり村名由来が楽しめそうである。使い分けていたとの説もある?

- ③図は田社神社の**財産目録**と言ったものである。
- 税との関わりで詳細に記録されているのですが、一尺にも満たない雑木5本まで記載されている事には少々驚きである。

地租改正(明治6年)で現金納になったのに「此貢米(こうまい)一斛(升)」とある。また「山地但有税」と神社の山が遂に有税地となった。まるで「検地」並みの富国強兵一直線の維新改革の波。

絵図帳には神社のほかに「高札所2カ所」「根尾川秣場」「埋葬地」の絵図と面積が詳細に記録されているが全て「除税地」の対象地である。(墓前の現砂利採掘場所は全て秣場まぐさばであった)

今は無き“神社の裏山”

江戸や明治時代の絵図には神社裏山がどっしりと控えて正に「鎮守の森」であったが残念ながら今は無い。郷境の裁判費用に此の山も差し出したことを思うと如何に村の一大事であったかが今更ながら…

あとがき

田社神社を三枚にわたって紹介しました。資料中心で面白くなかったと思いますが、下手な説明より貴重な資料から「田社神社600年の歩み」を感じて頂ければとの思いです。